

子どもの権利に関する推進計画の
あり方について(答申)

平成22年(2010年)10月

札幌市子どもの権利委員会

目次

はじめに

I	検討の経過	1
II	現状と課題	2
1	市民の意識等から見る子どもの現状	2
(1)	子どもの参加や体験について	2
(2)	大人と子どもの関わりや子どものふだんの生活について	6
(3)	子どもの権利の侵害について	9
(4)	子どもの権利について	12
2	子どもの権利の保障を進める上での課題	13
III	基本理念及び基本目標	15
1	基本理念	15
2	基本目標	15
IV	基本施策	17
1	子どもの意見表明・参加の促進	17
(1)	子どもが意見表明しやすい雰囲気づくり	17
(2)	子どもの参加の機会の充実と支援	17
(3)	子どもの豊かな学びと多様な体験活動に対する支援	19
2	子どもを受け止め、はぐくむ環境づくり	22
(1)	子どもが安心して過ごすための居場所づくり	22
(2)	活動を通して人間関係をつくりあえる環境づくり	23
3	子どもの権利の侵害からの救済	25
(1)	子どもの権利の侵害からの救済体制の整備・充実	25
(2)	権利侵害を起こさない環境づくり	26
4	子どもの権利を大切にする意識の向上	28
(1)	子どもの権利に関する広報普及	28
(2)	子どもの権利に関する学びの支援	28
V	計画の推進に当たって	30
	参考資料	31
	・札幌市子どもに関する実態・意識調査結果	31
	・子どもとの意見交換会結果	51
	・札幌市子どもの権利委員会委員名簿	58
	・札幌市子どもの権利委員会の開催経過	59

はじめに

札幌市では、平成21年（2009年）4月に、「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例（子どもの権利条例）」を施行し、子どもが自立した社会性のある大人へと成長発達できるよう、子どもの権利の保障を進めています。

「札幌市子どもの権利委員会」が昨年11月30日に設置され、札幌市長より、「子どもの権利に関する推進計画のあり方について」の諮問を受けて以降、私たち子どもの権利委員会では、子どもの成長を社会が一体となって支える社会とはどうあるべきなのかを、さまざまな視点から議論を重ねてきました。

検討に際し、現状を把握するに当たっては、ふだん声をあげにくい子どもたちの思いをじかに受け止めたいと考え、アンケートだけではなく、学校などを訪問して子どもたちと直接、意見交換を行ってまいりました。もちろん、この間の活動で私たちが聞くことができたのは、大勢の子どもたちのうちのほんの一部の声にすぎないのかもしれませんが、それでも、「伝えたい気持ちがあっても、なかなか声に出せない」という子どもの素直な気持ちを聞くことができたように思います。

私たちは、約10か月に及ぶ議論を経て、この答申に、基本理念「子どもの権利を尊重し、安心できる環境の中で、自立性と社会性をはぐくむまちの実現」と、それを実現するための、4つの基本的な目標を掲げました。

子どもが社会全体に温かく見守られながらも、自ら社会に参加し、関わりながら将来を担う大人へと育っていくことができるよう、家庭、学校、施設、地域、行政が、それぞれの立場で、また、連携・協力しながら、あるべき社会の姿に向かって進んでいかなければなりません。

この答申をもとに、推進計画を策定し、子どもが生き生きと輝き、育っていくまちづくりを、市民とともに全力を挙げて目指していくことを期待します。

平成22年10月18日

札幌市子どもの権利委員会
委員長 千葉 卓